

〈研究ノート〉

## 食の問題行動に関する臨床発達心理研究(4)

——身体心像の歪み指標——<sup>1)</sup>

今田 純雄・田崎 慎治・瀬戸山 裕

(受付 2006年10月10日)

### 1. 身体心像の歪み指標 (IBID) と自尊感情

身体輪郭評定尺度 (CDRS: Contour Drawing Rating Scale, Thompson, & Gray, 1995) は、極端に痩せた体型から極端に肥った体型まで男女各9枚の体型図を等間隔に並べ、それら体型図の下部に引かれた線分上に線を入れさせることによって体型を評価させるというものである (Figure 1)。

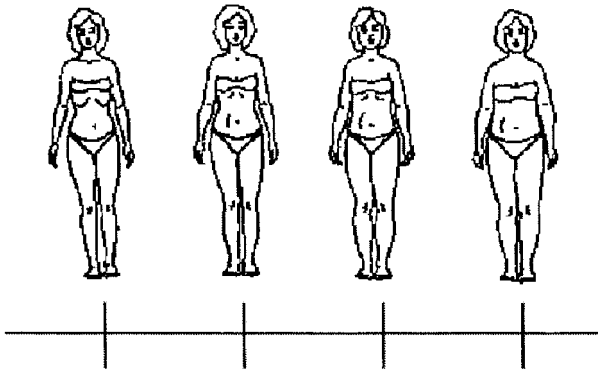


Figure 1. 身体輪郭評定尺度 (CDRS) の一部

このような体型図をもちいた身体心像測定の代表的研究は Fallon, & Rozin (1985) である。そこでは、男子大学生は、実際の自己体型と理想の自己体

1) 本研究は、広島修道大学2004年度調査研究費「食行動と身体心像に関する心理学的研究」の成果報告の一部をなすものである。

型の評定値にほとんど差異がない一方で、女子大学生は、実際の自己体型よりも理想の自己体型を、より以上に瘦身方向に評価していることが報告された。また今田 (1996) も、日本人大学生を対象に同様な研究をおこない、女子大学生は男子大学生以上に、実際と理想の体型評価値におおきな開き (距離) の見られたことを報告している。さらに今田 (2000) は、物理的体型と身体心像との関連を見るために、BMI (Body Mass Index), CDRS (current: 現在の体型評価) の平均値で調査対象者をそれぞれ 2 分割し、計 4 つのグループを構成した。その結果、BMI が平均よりも低いにもかかわらず CDRS (current) が平均よりも高い (実際には痩せているにもかかわらず、肥っていると評価している) グループは、女子の方が男子よりも多く、逆に BMI が平均よりも高いのにもかかわらず CDRS (current) が平均よりも低い (実際には肥っているにもかかわらず、痩せていると評価している) グループは、男子の方が女子よりも多いという結果を得た。このことは、女子学生の方が男子学生以上に、自らの身体体型を実際以上に肥っていると誤認知していることを示している。

また田崎 (2005) は、BMI と CDRS (current) の単回帰分析をおこない、回帰直線で調査対象者を二分し、自己をより細く評価している低評価群と自己をより太く評価している高評価群を設けた。その結果、低評価群は高評価群と比べ、BMI が有意に高く、理想とする体型評価値が有意に低く (より痩せた体型値)、また瘦身願望 (現在の体型評価値と理想の体型評価値との距離) が有意に高いという結果を得た。

本項では、これらの先行研究に基づき、CDRS を用いた体型誤認知の指標を新たに考案したので、それを紹介していく。Figure 2 は、女子大学生 91 名を対象に得られた BMI および CDRS (current) の結果を散布図として描いたものである<sup>2)</sup>。相関係数 (Pearson の積率相関係数) は 0.723 と極めて高い値が得られた。直線回帰式を求めたところ、 $Y = 14.647 \times X - 158.514$

2) 平均年齢は 20.3 才 (SD = 1.43) であった。データは 1998 年に広島市にて収集された。

( $Y=CDRS, X=BMI$ )であった。すなわちこの線上に位置する者は物理的体型評価と主観的体型評価が一致しているということである<sup>3)</sup>。体型認知の新たな指標とは、個々の CDRS 評点から、 $x$  軸に垂直に下ろした線分の、同 BMI の回帰式上の一点までの距離である。Figure 3 に模式的に描いたものを参照されたい。仮に A 点の CDRS 得点を180, BMI を19.0とする。BMI=19.0の時、回帰式から導かれる CDRS は119.8である。すなわち60.2 ( $180 - 119.8 = 60.2$ ) の距離が算出される。同様に、B 点の BMI は20.0で

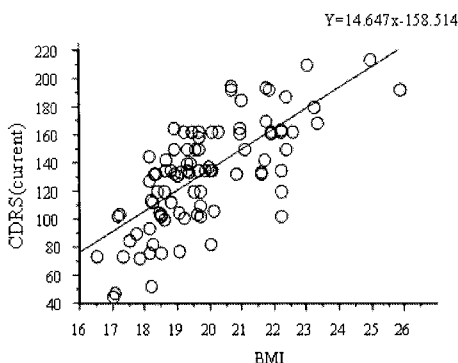


Figure 2. BMI および CDRS の散布図

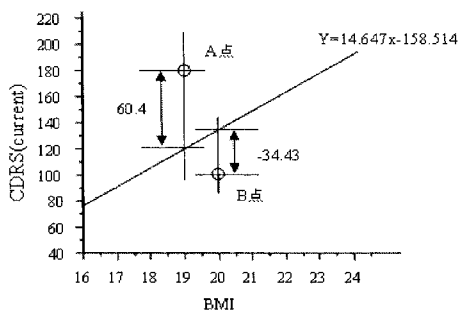


Figure 3. IBID を表す模式図

- 3) 物理的体型評価と主観的体型評価が一致しているということが身体心像に歪みがないということの意味しない。サンプルの全体に歪みが生じている可能性があるためである。ここでは、収集対象となった集団の平均的傾向に一致しているという意味で「一致」という表現をもちいた。

あり、CDRS 得点は100であるとする。B 点の場合は、 $-34.43$ という距離が算出される。すなわち、A 点はより肥った方向の身体心像を、また B 点はより痩せた方向への身体心像を有しているとみなされる。このような方法により算出される値を IBID (Index of Body Image Distortion: 身体心像の歪み指標) と命名する。

さて IBID は、どのような変数と関連がつよいであろうか。Table 1 は、Figure 2 と同サンプルの女子大学生を対象として得られた結果である。IBID は、身長、体重、BMI とは無相関である一方、CDRS の 3 指標とは有意な正の相関を得た。現在 (CDRS: current) とは、「今現在の、あなた自身の体型だと思うところ」と教示して得られた評定値であり、現在の心理的体型といえるものである。物理的体型値 (BMI) とは無相関でありながら、心理的体型値 (CDRS: current) とはつよい正の相関が見られたということは実に興味深い。実際に (物理的に) 肥っているかどうかではなく、肥っているという認知の傾向が高いほど IBID も高くなるということである。理想 (CDRS: ideal) とは、「あなたが、こうありたいと思う『理想』の体型のところ」と教示して得られた評定値である。ために評定するほど IBID も高くなるという結果であった。瘦身願望 (desire for thinness) は現在 (CDRS: current) から理想 (CDRS: ideal) の値を減じて得られる値であり、この値がおおきいほど瘦身への願望度合いが高いとみなされる。この瘦身願望もまた IBID と高い正の相関が得られた。これらの結果をまとめると次のようにいえる。すなわち、心理的に、自らの体型を太く認知する傾向が高いほど身体心像の歪みは大きく、また瘦身願望の傾向が高いほど身体心像の歪みは大きくなった。また、これらの身体心像の誤認知は物理的体型とは関連しなかった。

食行動と IBID との関連はどうであろうか。Table 1 では、日本語版 DEBQ 質問紙 (今田, 1994)<sup>4)</sup> の結果を示した。抑制的摂食, 外発的摂食,

4) 本尺度は33項目からなるものであるが、ここでは16項目に短縮したものを使用した。この短縮版の妥当性, 信頼性については十分な検討をおこなったが、こ

情動的摂食のいずれとも IBID は無相関であった。身体心像の歪みは、これら3つの特徴的食行動とは関連がないといえよう。

つぎに自尊感情<sup>5)</sup>との関連について検討した (Table 1 では, SE: Self-esteem と表記)。IBID と SE は, 有意なややつよい負の相関関係がみられた。すなわち, 自尊感情が低いほど身体心像の歪みが大きくなるということである。自尊感情と瘦身願望との負の相関はこれまでも指摘されてきており (e.g., Tigemann, 1994; Quatman & Watson, 2001), なかでも田崎 (2004) は, 共分散構造分析を行うことにより, 瘦身願望が自尊感情の低下に先行するものであることを指摘している。本サンプルにおいても自尊感情と瘦身願望の間には有意な負の相関関係がみられている ( $r=0.294$ ,  $p<.01$ )。すでに見てきたように瘦身願望は IBID とやや強い正の相関が見られており, IBID と SE が負の相関関係を有することは, 先行研究の結果と整合性をもつものである。以上のことより, 瘦身願望が身体心像の歪みを導き, その次の段階として自尊感情を低下させるのではないかと考えられる。今後において, より多数のサンプルを収集し, このような因果関係を実証できる分析を試みていくことが求められる。また今回のサンプルが大学生であることから, 高校生, 中学生さらに小学生を対象としたサンプルからデータを収集し, 発達という時間軸においてこれら3者 (瘦身願望, 身体心像の歪み, 自尊感情の低下) の関係性がいかに進展・変化していくかを検討していくことが必要とされる。

Table 1 IBID と各指標との相関

	身長	体重	BMI	CDRS			DEBQ			SE
				現在	理想	瘦身願望	抑制	外発	情動	
相関係数	0.05	0.08	0.05	0.72	0.35	0.56	0.13	-0.04	0.13	-0.28
<i>p</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	<.0001	<.001	<.0001	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	<.01

ㄨ ではその詳細にふれない。

5) Rosenberg (1965) の SE 尺度をもとに松下 (1969) が作成したものをを使用した。

## 2. 身体心像の歪み指標と外見不安尺度 (PASTAS)

PASTAS (Physical appearance state and trait anxiety scale) は, Reed, Thompson, Brannick, & Sacco (1991) によって作成された16項目からなる尺度であり, 身体の全体像と15の身体部位について, 不満の程度を5件法で評価させるというものである。ここでは, 日本語版 PASTAS を, 本項前半部分で使用したサンプルと同じ91名の女子大学生に対して施行した結果について報告する。15の身体部位は, Figure 4 に示したイラスト図を参考に評定することが求められた。その部位は, 大腿部 (もも), 臀部 (おしり), 腰部 (ヒップ), 腹部 (お腹), 下肢, ウエスト, 筋肉のつき具合, 耳, 唇, 手首, 手, 額, 首, あご, 足である。

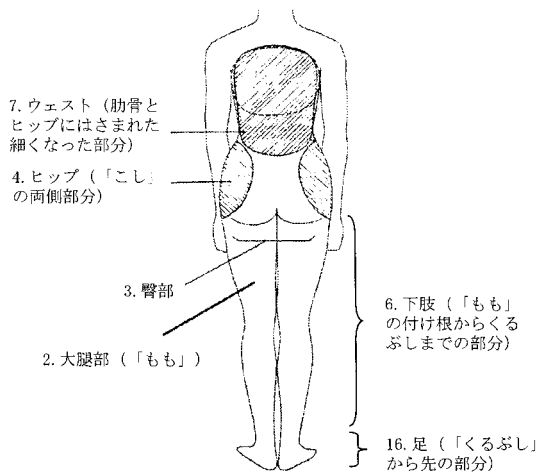


Figure 4. 日本語版 PASTAS のイラスト図

Table 2 は, 身体心像の歪み指標 (IBID) ならびに瘦身願望 (DFT) と, PASTAS との相関関係を示したものである。PASTAS は, IBID よりも DFT との関連性の方がつよいといえよう。DFT と PASTAS との関連について,

その相関係数の高い順にならべると、全身、大腿部（もも）、下肢、臀部（おしり）、ウエスト、腰部（ヒップ）、腹部（お腹）、手首、足、筋肉のつき具合、あごとなり、それぞれが有意な正の相関関係を示した。その一方で、耳、唇、手、額、首とはほぼ無相関であった。瘦身願望は、下半身に集中する身体各部位に対するネガティブな感情（不満足感、不快感、不安感、困惑など）とつよい相関関係があるといえよう。

同様に、IBID と PASTAS との関連についてみていくと、全身、足、大腿部（もも）、下肢、腹部（お腹）、臀部（おしり）、あご、筋肉のつき具合と関連性が高く、それぞれにおいて有意な正の相関がみられた。DFT と比べると、ウエスト、腰部（ヒップ）、手首との相関が見られないが、DFT 同様に、IBID は、下半身に集中する身体各部位に対するネガティブな感情（不満足感、不快感、不安感、困惑など）とつよい相関関係があるといえる。また DFT 同様に、耳、唇、手、額、首とはほぼ無相関であり、上半身に集中する身体各部位に対する不満足感とは関連性がないといえる。

一般的な見方からすると、瘦身願望は、体重の減少、特に身体脂肪の減量を動機づける。しかしながら、PASTAS で評価項目となった身体部位のなかには、足、手首、あごといった骨格サイズを直接に反映すると考えられる部位へのネガティブな感情（不満足感）が見られた。身長を変容することが困難であることと同様に、骨格を変容することも困難である。にもかかわらず瘦身願望と有意な正の相関関係にあったということは注目される。すなわち瘦身願望とは、体重の減少、特に身体脂肪の減量を動機づけるだけでなく、骨格の変容といった非現実的な願望も反映していると考えられる。

IBID、DFT 同様に SE（自尊感情）についても PASTAS 16項目との関連性について検討した（Table 2）。ここでも、DFT、IBID 同様に、下半身に集中する身体部位に対するネガティブな感情と関連のつよいことがわかる。自尊感情の低さは、全身、腹部（お腹）、下肢、腰部（ヒップ）、臀部（おしり）、大腿部（もも）と有意な負の相関関係をもつものであった。

Table 2 PASTAS と IBID, DFT, SE の相関

	全身	大腿部 (もも)	臀部 (おしり)	腰部 (ヒップ)	腹部 (お腹)	下肢	ウェスト	筋肉の つき具合
IBID	0.32	0.29	0.22	0.18	0.23	0.24	0.18	0.22
<i>p</i>	**	**	*	<i>n.s.</i>	*	*	<i>n.s.</i>	*
DFT	0.50	0.48	0.39	0.37	0.34	0.40	0.39	0.28
<i>p</i>	****	****	****	****	****	****	****	**
SE	-0.38	-0.22	-0.22	-0.24	-0.33	-0.24	-0.20	-0.20
<i>p</i>	***	*	*	*	**	*	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>

	耳	唇	手首	手	額	首	あご	足
IBID	0.16	0.04	0.13	0.11	0.03	0.01	0.23	0.30
<i>p</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	*	**
DFT	-0.02	0.00	0.32	0.18	-0.07	0.12	0.22	0.29
<i>p</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	**	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	*	**
SE	-0.03	-0.01	-0.14	-0.09	-0.25	-0.16	-0.22	-0.25
<i>p</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	*	<i>n.s.</i>	*	*

\**p*<.05, \*\**p*<.01, \*\*\**p*<.001, \*\*\*\**p*<.0001

### 3. 身体心像の歪み指標と身体像質問紙 (BSQ)

BSQ (Body Shape Questionnaire) とは, Copper, Taylor, Cooper, & Fairburn (1987) によって開発された34項目からなる質問紙であり, 最近(直近1ヶ月)の日常経験のなかでどの程度, 自己の身体や外見に関することがらで不快な経験をしたかを問うものである。本項では, 新たな女子大学生サンプル60人を対象に得られた結果について報告する<sup>6)</sup>。ここでは現在(CDRS: current)を, 「あなたが, 感じる現在の自分自身の体型」と教示し得られた評定値(CDRS: feel)と, 「あなたが, 考える現在の自分自身の体型」と教示し得られた評定値(CDRS: think)の2つに分けて求めたので, 以下の分析においても両者を分けて検討していく。BMIとCDRS: feelから得られた回帰式は $Y = 12.03 \times X - 131.974$  ( $Y = \text{CDRS: feel}, X = \text{BMI}$ )で

6) 平均年齢は19.5 (SD=1.32) 才であった。データは, 2001年に広島市において収集された。



あり、BMI と CDRS: think から得られた回帰式は  $Y = 11.253 \times X - 119.882$  であった。これらの回帰式より IBID を求め、それぞれを IBID\_F (CDRS: feel) と IBID\_T (CDRS: think) とした。また瘦身願望も 2 種類のを算出し、それぞれを DFT\_F (CDRS: ideal と CDRS: feel の差)、DFT\_T (CDRS: ideal と CDRS: think の差) とした。

BSQ 32項目と DFT\_F, DFT\_T, IBID\_F, IBID\_T 評点との相関係数を Table 3 に示した。DFT\_F, DFT\_T と BSQ は多くの項目で有意な正の相関をみた。一方、IBID\_F, IBID\_T と BSQ は、項目10「座ったときに、自分のものの幅が広がることを気にしたことはありましたか」と IBID\_F との間に有意な正の相関を見た以外は、すべてのケースで有意性はみられなかった。BSQ は瘦身願望を敏感に反映するが、身体心像の歪みはほとんど反映しないといえよう。また現在 (CDRS: current) を、「あなたが、感じる現在の自分自身の体型」と教示し得られた評定値 (CDRS: feel) と、「あなたが、考える現在の自分自身の体型」と教示し得られた評定値 (CDRS: think) との2つに区別してそれぞれの相関係数を算出したが、瘦身願望、身体心像の歪み指標ともに両者の違いを反映する差異を見いだすことはできなかった。

そこで、BSQ への回答傾向を要約する変数を探索することとした。まず BSQ 32項目の因子構造を検討する為に、主因子法 (非回転) による分析を試みた。その結果、第1因子の負荷量が16.24となり、第2因子以下が2.00以下で続くことから、1因子構造のものであるとみなした。項目分析を行ったところ、項目25が G-P 分析 (上位下位分析) ならびに項目-尺度相関において、他の項目と比べ尺度への貢献度の低いことが判明した。さらに、項目8, 18, 26の平均得点が2.00未満であり、他の項目と比較して分布に歪みのあることが判明した。よってこれら4項目を除外し再度因子分析 (非回転) をおこなったところ、第1因子のすべての項目の因子負荷量が.49以上となり、その寄与率は50.65%、また  $\alpha$  係数は0.97という結果を得た。以上のことより、BSQ 32項目からこれら4項目を除いた28項目の総点を BSQ

Table 3 BSQ と DFT\_T, DFT\_F, DFT\_T との相関

項目	DFT_F		DFT_T		IBID_F		IBID_T	
	r	p	r	p	r	p	r	p
2 体型のことを気にやんでダイエツすべきだと感じたことはありましたか。	0.56	<.0001	0.48	<.0001	0.09	n.s.	-0.03	n.s.
10 座ったときに、自分のものも幅が広がることを気にしたことはありませんか。	0.56	<.0001	0.50	<.0001	0.32	<.05	0.22	<.10
9 ほっそりした女性ということによって、自分の体型が気に入りましたか。	0.56	<.0001	0.52	<.0001	0.24	<.10	0.22	n.s.
19 体が極端に大きくなったと太ったと感じたことはありましたか。	0.54	<.0001	0.55	<.0001	0.21	n.s.	0.28	<.10
12 他の女性の体型に注目して、それに比べて自分の体型は好ましくないと感じたことはありましたか。	0.53	<.0001	0.53	<.0001	0.23	<.10	n.s.	n.s.
27 自分の体の余分な肉が剥打つていくことについて気にやんだことはありましたか。	0.53	<.0001	0.52	<.0001	0.14	n.s.	0.11	n.s.
5 体が十分引きしまっていないという事について気にやんじましたか。	0.51	<.0001	0.44	<.001	0.13	n.s.	0.02	n.s.
6 たらふく食べるようになって満腹になった後、太ったなと感じることはありましたか。	0.51	<.0001	0.46	<.001	0.19	n.s.	0.11	n.s.
15 体型をもう少し綺麗にしたい、また太るのを避けたことはありましたか。	0.47	<.001	0.52	<.0001	0.15	n.s.	0.17	n.s.
4 太るかもしれない、または太るかもしれないと心配したことはありましたか。	0.47	<.001	0.40	<.01	-0.01	n.s.	-0.11	n.s.
3 お尻やももや下半身が他の体の部位に対して大きいと思うことはありましたか。	0.47	<.001	0.38	<.01	0.14	n.s.	0.00	n.s.
28 鏡やショーウィンドウに映った自分の体を見てうんざりしたことはありましたか。	0.44	<.001	0.45	<.001	0.11	n.s.	0.12	n.s.
20 自分の体型を恥ずかしく感じたことはありましたか。	0.44	<.001	0.48	<.0001	0.12	n.s.	0.17	n.s.
31 他人の前で自分の体型がとくに気になったことはありましたか。	0.44	<.001	0.45	<.001	0.04	n.s.	0.05	n.s.
32 体型が気になって運動すべきだと感じましたか。	0.43	<.001	0.41	<.001	0.13	n.s.	0.09	n.s.
17 と感じたことはありましたか。	0.43	<.001	0.37	<.01	0.08	n.s.	-0.02	n.s.
24 他人が、自分の腰や胃の周りはみ出したせいで、見るのが気になったことがありましたか。	0.42	<.001	0.43	<.001	0.09	n.s.	0.10	n.s.
16 体のよく太った部分を切り取ろうと想像したことはありましたか。	0.42	<.001	0.32	<.05	0.18	n.s.	0.02	n.s.
7 体型について泣くほど気にやんだことはありましたか。	0.41	<.001	0.42	<.01	0.06	n.s.	0.07	n.s.
14 入浴などをすするときに、裸になったと感じたことはありましたか。	0.40	<.01	0.36	<.01	0.10	n.s.	0.05	n.s.
21 体型への悩みからダイエツをしましたか。	0.39	<.01	0.39	<.01	0.04	n.s.	0.03	n.s.
18 体型を気にやんで社交的な場(コンパやパーティーなど)に外出しなかつたことはありましたか。	0.36	<.01	0.32	<.05	0.02	n.s.	-0.04	n.s.
26 とはありましたか。(ソファやバスの席に座ったりしている時など)。	0.36	<.01	0.34	<.01	0.07	n.s.	0.04	n.s.
1 退屈したときに体型について考え込んだことがありましたか。	0.36	<.01	0.28	<.05	0.20	n.s.	0.08	n.s.
23 思ったより急に自覚がなかったために現在の体型になったことはありましたか。	0.36	<.01	0.36	<.01	0.02	n.s.	0.02	n.s.
30 他人に体を見られるような状況(共同の脱衣場、水泳プールなど)を避けたことはありましたか。	0.35	<.01	0.29	<.05	-0.06	n.s.	-0.15	n.s.
11 少量の食べ物を食べた時でもさても、太ったと感じたことはありましたか。	0.35	<.01	0.30	<.05	0.11	n.s.	0.05	n.s.
13 少量の体型のことが気になつて、そのせいで聞いたこと(テレビを見たり、読書したり)。	0.32	<.05	0.29	<.05	0.09	n.s.	0.04	n.s.
29 そのせいで肉の脂肪があるのかがみるために、体の部分をつまんだことがありましたか。	0.32	<.05	0.23	<.10	0.06	n.s.	-0.08	n.s.
8 体の内が揺れるかもしれないかと思つて走ることを避けたことはありましたか。	0.31	<.05	0.29	<.05	0.07	n.s.	0.04	n.s.
22 胃の中が空っぽの時(朝など)の体型について最高にいい気分だと感じたことはありましたか。	0.23	<.10	0.23	<.10	-0.14	n.s.	-0.13	n.s.
25 他の女性が自分よりやせているのは不公平だと思つたことはありましたか。	0.16	n.s.	0.19	n.s.	-0.11	n.s.	-0.07	n.s.

への回答傾向を要約する変数（以下では、BSQ 尺度得点とよぶ）とみなすこととした。

BSQ 尺度得点と、痩身願望（DFT\_F, DFT\_T）ならびに身体心像の歪み指標（IBID\_F, IBID\_T）との関連性を検討するために、それぞれの相関係数を算出した。その結果、BSQ 尺度得点と痩身願望との間に強い相関が見られたが（BSQ vs DFT\_F:  $r=0.569$ ,  $p<0.0001$ ; BSQ vs DFT\_T:  $r=0.529$ ,  $p<0.0001$ ）、BSQ 尺度得点と身体心像の歪み指標との間には有意性はみられなかった（BSQ vs IBID\_F:  $r=0.129$ , *n.s.*; BSQ vs IBID\_T:  $r=0.66$ , *n.s.*）。以上のことより、BSQ は痩身願望とつよい関連性をもつが、身体心像の歪み指標とは関連性をもたないといえる。

#### 4. 身体心像の測定

身体心像（body image）は多面的側面をもつ。それゆえにその測定も、身体心像のどのような側面に関心があるかによってさまざまな方法が採用される。Thompson, & Berg (2002) は、過去20年にわたる研究を回顧し、身体心像研究は以下の4つの側面に焦点があてられてきたと述べている。1) 外見に対する全体的な主観的不満足感（subjective dissatisfaction）、2) 外見に対する感情的苦悩（affective distress: 不安、情動不安、不快など）、3) 認知的とらわれ、偏執（cognitive aspects: 外見のことばかりを考え、自己の身体や身体像についての誤った考えや信念をもつようになること）、4) 回避行動 behavioral avoidance: 身体心像への関心呼び起こす事態や事象からの回避）、の4点である。さらに Thompson, & Berg (2002) は、これら4側面に焦点をあてて行われてきた身体心像に関する代表的な研究を紹介している。Table 4 は、それらをまとめたものである。

身体心像に関する研究は1990年代にはいって飛躍的に増加した(Pruzinsky, & Cash, 2002)。PsycINFO による文献検索では（title に "body image" と入力し得られた文献数）、1989-1991年で197件、1992-1994年で174件、1995-1997年で225件、1998-1999年で179件、2000年で96件、2001年で128件、

Table 4 身体心像に関する主な研究 a)

名称	著者	方法	信頼性	対象
<u>全体的な不満足感の測定—体型図評定</u>				
Body Image Assesment	Williamson et al., (1989)	低体重から過体重まで9枚の体型図からの選択	IC: なし, TR: 8 週間後 (.60-.93)	659名の女性, BN, AN, NM, OB, AT
Figure Rating Scale	1) Stunkard et al. (1983); 2) Thompson & Altabe, (1991)	低体重から過体重まで男女各9枚の体型図からの選択	IC: なし, TR: 2 週間後 (.71-.92)	1) 125名の男性, 204名の女性, 2) 58名の女性, 34名の男性
Contour Drawing Rating Scale	Thompson & Gray, (1995)	低体重から過体重まで男女各9枚の体型図	IC: なし, TR: 1 週間後 (.79)	男女大学生40名
Somatomorphic Matrix	Pope et al., (2000)	体脂肪率と筋肉のつきぐわいを変化させた100枚の体型図, PC 使用	IC: なし, TR: なし	男子大学生200名
<u>全体的な不満足感の測定—質問紙評定</u>				
Body Esteem Scale	Franzoi & Shields, (1984)	16の新しい項目を加えた body cathexis scale の修正版, 3 因子構成	IC: 女子 (.78-.87), 男子 (.81-.86), TR: なし	大学生女子366名, 男子257名
Body Esteem Scale for Adolescents and Adults	Mendelson et al., (2001)	23項目 Likert 法, attribution, appearance, weight の3つのサブスケール	IC: appearance (.92), attribution (.81), weight (.94), TR: 3 ヶ月後 (.83-.92)	IC: (appearance): 1308, (attribution): 1283, (weight): 1312, ages 12-25, TR: 95名の短大生
Body Satisfaction Scale	Slade et al., (1990)	16の身体部位に対する満足度	IC: .79-.89, TR: なし	女性: 大学生, OW, AN, BN 他
Body Shape Questionnaire	Cooper et al., (1987)	身体像に関する34項目	IC: なし, TR: なし	BN および統制サンプル
Eating Disorder Inventory- Body Dissatisfaction Scale	1) Garner et al., (1983), 2) Shore & Porter, (1990), 3) Wood et al., (1996)	身体部位 (7 項目)それぞれに対し, 9 つの記述への同意の程度を評価	1) IC: AN (.90), 統制群 (.91), 2) IC: 青年男女 (11-18才, .86-.91), 3) IC: 子ども (8-10才, .72-.84)	1) 女子, AN 113名, 統制群577名, 2) 少年195名, 少女414名, 3) 少年109名, 少女95名

Multidimensional Body Self-Relations Questionnaire- Appearance Scales	Brown et al., (1990)	外見、認知行動的専有(とらわれ)、身体各部位への満足度、過体重不安等の評定、痩せ(過体重)の程度の評定	IC: 70-89, TR: 1ヶ月後(.74-.91)	男子996名, 女子1070名(男子335名, 女子804名), TR: 大学生男子335名, 女子804名
Body-Image Ideals Questionnaire	Cash & Szymanski, (1995)	理想と現実とのギャップを測定する11項目と外見理想評定の10項目	IC: .76-.81, TR: なし	成人の男子192名, 女子896名
Self-Image Questionnaire for Young Adolescents- Body Image Subscale	Peterson, (1984)	10-15才用, body image subscaleとして11項目	IC: .77-.81, TR: 1年後(.60), 2年度(.44)	335名(第6学年より第8学年まで追跡)
感情評定				
Physical Appearance State and Trait Anxiety Scale	Reed et al., (1991)	16の身体部位に対する不安評定, 特性不安と状態不安の測定	IC: 特性不安(.88-.92), 状態不安(.82-.92), TR: 2週間後(.87)	IC: 女子1207名, 男子386名, TR: 男子30名, 女子110名
Situational Inventory of Body-Image Dysphoria	Cash, (1994)	48場面におけるネガティブな感情体験の評価	IC: .96, TR: 1ヶ月後(.80-.86)	IC: 男子332名, 女子1349名, TR: 男子30名, 女子114名
認知評定				
Appearance Schemas Inventory	Cash & Labarge, (1996)	14項目より外見に関連した考え方の機能不全を評定	IC: .82-.86, TR: 1ヶ月後(.72-.76)	IC: 男子22名, 女子167名, TR: 男子22名, 女子49名
Attention to Body Shape Scale	Beebe, (1995)	7項目により身体像への注目の程度を測定	IC: 70-83, TR: 1ヶ月後(.70-.87)	青年版: IC: 86, TR: .86, 成人版: IC: 91, TR: なし
Multidimensional Media Influence scale- Adolescent Version and Adult Version (formerly SATAQ)	Thompson et al., (2001)	青年版: 5項目より, 社会的文化的見解の内在化を測定, 成人版: 15項目より社会的文化的見解の内在化を測定	青年版: IC: 86, TR: .86, 成人版: IC: 91, TR: なし	青年版: IC: 187名の中学生女子, TR: 33名の中学生女子, 成人版: IC: 150名の大学生女子
行動評定				
Body Image Avoidance Questionnaire	Rosen et al., (1991)	身体心像に関連した回避行動の頻度評定	IC: .89, TR: 2週間後(.87)	145名の女子大学生

a) IC: internal consistency, TR: test-retest, BN: bulimics, AN: anorexics, NM: normals, OB: obese subjects, AT: atypical eating disordered subjects, OW: over weight subjects.

2002年で114件, 2003年で84件, 2004年で142件, 2005年で142件, 2006年(9月まで)で77件の結果が得られた。過去16年ほどの間に1561の論文が出ていることとなる。本項執筆時点で検索可能な年代(1806年より2006/09年まで)で同様な検索をおこなうと2253件がヒットする。PsycINFO がカバーしている論文範囲の70%近い論文が過去16年ほどの間に刊行されていることになる。また, 2004年より BODYIMAGE: An International Journal of Research (Elsevier) が刊行され, 独立した研究領域との認知も進んでいる。本項で紹介した身体心像の歪み指標もまたこれら身体心像に対する学術的成果に今後いくばくかの貢献をしていくであろうことが期待される。

#### 引用文献

- Cooper, P. J., Taylor, M. J., Cooper, Z., & Fairburn, C. G. (1987). The development and validation of the body shape questionnaire. *International Journal of Eating Disorders*, 6, 458-494.
- Fallon, A. E., & Rozin, P. (1985). Sex differences in perceptions of desirable body shape. *Journal of Abnormal Psychology*, 94, 102-105.
- 今田純雄 (1994). 食行動に関する心理学的研究(3) 一日本語版 DEBQ 質問紙の標準化一, 広島修大論集, 34, 281-291.
- (Imada, S. (1994). Psychological studies about eating behavior (3): A Japanese version of the Dutch Eating Behavior Questionnaire (DEBQ). *Studies in The Humanities and Sciences*, 34, 281-291.)
- 今田純雄 (1996). 青年期の食行動 中島義明・今田純雄(編)人間行動学講座 2 たべる—食行動の心理学— 朝倉書店 pp. 114-131.
- 今田純雄 (2000). 肥満という痛み 岡堂哲雄・上野 轟・志賀令明(編)現代のエスプリ別冊 病気と痛みの心理 至文堂 pp. 126-134.
- 松下 寛 (1969). Self-image の研究—Self-esteem scale の作成— 日本教育心理学第11回総会発表論文集, 280-281.
- Pruzinsky, T., & Cash, T. F. (2002). Understanding body images: Historical and contemporary perspectives. In T.F. Cash & T. Pruzinsky (Eds.), *Body Images: A Handbook of Theory, Research, and Clinical Practice*. New York: Guilford Press. pp. 3-12.
- Quatman, T., & Watson, C. M. (2001). Gender differences in adolescent self-esteem: An exploration of domains. *The Journal of Genetic Psychology*, 162, 93-117.

- Reed, D. L., Thompson, J. K., Brannick, M. T., & Sacco, W. P. (1991). Development and validation of the Physical Appearance State and Trait Anxiety Scale (PASTAS). *Journal of Anxiety Disorders*, *5*, 323–332.
- Rosenberg, M. (1965). *Society and the adolescent self-image*. Princeton Univ. Press.
- 田崎慎治 (2004). 主観的健康感が瘦身願望の強さに及ぼす影響 日本心理学会第68回大会発表論文集, 1231.
- 田崎慎治 (2005). 瘦身願望と食行動に関する研究 日本心理学会第69回大会発表論文集, 1383.
- Thompson, J. K., & van den Berg, P. (2002). Measuring body image attitudes among adolescents and adults. In T. F. Cash & T. Pruzinsky (Eds.), *Body images: A Handbook of Theory, Research, and Clinical Practice*. New York: Guilford Press. pp. 142–153.
- Tiggemann, M. (1994). Gender differences in the interrelationships between weight dissatisfaction, restraint, and self-esteem. *Sex Roles*, *30*, 319–330.

Table 4 で引用した文献

- Beebe, D. W. (1995). The Attention to Body shape Scale: A new measure of body focus. *Journal of Personality Assessment*, *65*, 486–501.
- Brown, T. A., Cash, T. F., & Mikulka, P. J. (1990). Attitudinal body image assessment: Factor analysis of the Body-Self Relations Questionnaire. *Journal of Personality Assessment*, *55*, 135–114.
- Cash, T. F. (1994). The Situational Inventory of Body Image Dysphoria: Contextual assessment of a negative body image. *The Behavior Therapist*, *17*, 133–134.
- Cash, T. F., & Labarge, A. S. (1996). Development of the Appearance Schemas Inventory: A new cognitive body-image assessment. *Cognitive Therapy and Research*, *20*, 37–50.
- Cash, T. F., & Szymanski, M. L. (1995). The development and validation of the body-image ideals questionnaire. *Journal of Personality Assessment*, *64*, 466–477.
- Cooper, P. J., Taylor, M. J., Cooper, Z., & Fairburn, C. G. (1987). The development and validation of the body shape questionnaire. *International Journal of Eating Disorders*, *6*, 458–494.
- Franzoi, S. L., & Shields, S. A. (1984). The Body Esteem Scale: Multidimensional structure and sex differences in a college population. *Journal of Personality Assessment*, *48*, 173–178.
- Garner, D. M., Olmsted, M. P., & Polivy, J. (1983). Development and validation of a multidimensional eating disorder inventory for anorexia nervosa and bulimia.

- International Journal of Eating Disorders*, **2**, 15–34.
- Mendelson, B. K., Mendelson, M. J., & White, D. R. (2001). Body-Esteem Scale for Adolescents and Adults. *Journal of Personality Assessment*, **76**, 90–106.
- Petersen, A. C. (1984). A self-image questionnaire for young adolescents (SIQYA): Reliability and validity studies. *Journal of Youth and Adolescence*, **13**, 93–111.
- Pope, H. G., Gruber, A. J., Mangweth, B., Bureau, B., deCol, C., Jouvent, R., & Hudson, J. I. (2000). Body image perception among men in three countries. *American Journal of Psychiatry*, **157**, 1297–1301.
- Reed, D. L., Thompson, J. K., Brannick, M. T., & Sacco, W. P. (1991). Development and validation of the Physical Appearance State and Trait Anxiety Scale (PASTAS). *Journal of Anxiety Disorders*, **5**, 323–332.
- Rosen, D. L., Srebnik, D., Saltzberg, E., & Wendt, S. (1991). Development of a body image avoidance questionnaire. *Psychological Assessment*, **3**, 32–37.
- Shore, R. A., & Porter, J. E. (1990). Normative and reliability data for 11- to 18-year-olds on the Eating Disorder Inventory. *International Journal of Eating Disorders*, **9**, 201–207.
- Slade, P. D., Dewey, M. E., Newton, T., Brodie, D., & Kiemle, G. (1990). Development and preliminary validation of the Body Dissatisfaction Scale (BSS). *Psychology and Health*, **4**, 213–220.
- Stunkard, A. J., Sorenson, T. I., & Schulsinger, F. (1983). Use of the Danish Adoption Register for the study of obesity and thinness. In S. Kety, L. P. Rowland, R. L., Sidman, & S. W. Matthysse (Eds.), *The genetics of neurological and psychiatric disorders* (pp. 115–120). New York: Raven Press.
- Thompson, J. K. & Altabe, M. N. (1991). Psychometric qualities of the Figure Rating Scale. *International Journal of Eating Disorders*, **10**, 615–619.
- Thompson, J. K., & van den Berg, P., Keery, H. K., Shroff, H., Haselhuhn, G., Roehrig, M. (2001, May). *Media exposure and internalization of media images*. Presented at the Academy for Eating Disorders' Tenth International Conference on Eating Disorders of the Academy of Eating Disorders, Vancouver, B. C.
- Thompson, M. A., & Gray, J. J. (1995). Development and validation of a new body-image assessment tool. *Journal of Personality Assessment*, **64**, 258–269.
- Williamson, D. A., Davis, C. J., Bennett, S. M., Goreczny, A. J., & Gleaves, D. H. (1989). Development of a simple procedure for assessing body image disturbances. *Behavioral Assessment*, **11**, 433–446.
- Wood, K. C., Becker, J. A., & Thompson, J. K. (1996). Body image dissatisfaction in preadolescent children. *Journal of Applied Developmental Psychology*, **17**, 85–100.